

医療や介護を受ける際、知つておくと結果が良い方向に向かいやすくなる知識・情報がある。そのような内容のいくつかを、医療・介護の専門職から連載で伝えていきたい。

病院でも介護の場面でもリハビリテーションという言葉をよく耳にする。今回このリハビリテーションはどのようなものなのか、リハビリテーションを受ける際に心がけると良いことを説明しよう。

リハビリテーションというと骨折や鞄帯の怪我の後に行うイメージがあるかもしれない。これらはリハビリテーションの領域のひとつ

である。さらに脳卒中と
なって片側が麻痺した、肺
炎で臥床が続いて身体が弱
つた後にもリハビリテーション
が行われる。がんのリハ
ビリテーションという領域
もある。

リハビリテーションは障害
に対応する医療である。
筋力が低下したり、関節
の動く範囲が狭またりと
いった機能障害に対し、ま
た着がえや歩行といった日
常生活が困難になったこと
に対し、その改善をはか
ることがリハビリテーション
である。リハビリテーション
が扱う領域は手足の動き
の障害に留まらず、嚥下・
構音障害や、認知・判断

力などが含まれ
機能障害に及ぶ
この障害への対
通りのやりかたが
1つは障害その
すことである。因
て足の筋力が弱
対して、
筋力トレーニングをし
て力をつけておけ
けなおす
場合がこれにあた
る。関節の曲げ
範囲が狭まつてしま
きにストレッチを域を拡げるのもある。
もうひとつ的是

る高次脳たは、やれど
心には一習すことを
ある。ものを治しに左上
臥床が続いたことにする左上
したことにする左上

障害があるために、
方法を工夫して
いるのである。
上肢が麻痺して
いい場合に右手で
使って洋服を脱
方法を習得する
のである。

なりにすことが難
じて練り別 の方法
ように努力
して動か
を上
る。
リテーション
がぎ着
障害は必
とか
る訳ではな
い、治
し、麻痺
家族が理解
という
ことが大切
て固
の改善が難
きをす
きに励ま
族から本人
ーショーンで元

しかしも完治するのを助けるのがリハビリテーションである。症状の進行を止めるために、リハビリテーションは重要な治療法である。

「」と話してしまったの都合の悪さを分りハビリテーションの専門職には、アーチション科医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士、社会工作者などがいてチームでいる。

専門職は、いかに的確に治し、また何法を身につけるかを組み立てたり監督するプロであり、ともに動かして患者さん本人が継続する。動作を身につける。

まうこと
かつて欲
るがま
くもの
要であ
ヨンを担
りハビリ
療法士
リハビ
業療法
が分か
看護師
リハビ
テーシ
云福祉士
際に、
おうと
を組んで
かに効率
は新たな
るかを指
のよう
練習
助言した
んでもい
たりす
けるには
リハ
り返し
まく活
ことが必
高めて

り、療法士にさまになっていて身ではない。受け身で、本質的になることある。

ヒリテーションの基づいてれば、リハビリヨンが必要となつて、何でもなおして、いう気持ちと、ギヤップに悩まさるが減るであろうがなんとかしようを持ちにもなり、新たな目標を立てて、ければ良いかも理解になると期待できるヒリテーションを用いて生活の質を戴きたい。

知つ得

藤田医科大学七栗記念病院
病院長 藤田茂

1 リハビリテーション

医療や介護を受ける際、知つておくと結果が良い方向に向かいやすくなる知識・情報がある。そのような内容のいくつかを、医療・介護の専門職から連載で伝えていきたい。

病院でも介護の場面でもリハビリテーションという言葉をよく耳にする。今回このリハビリテーションはどのようなものなのか、リハビリテーションを受ける際に心がけると良いことを説明しよう。

リハビリテーションというと骨折や鞄帯の怪我の後に行うイメージがあるかもしれない。これらはリハビリテーションの領域のひとつ

である。さらに脳卒中と
なって片側が麻痺した、肺
炎で臥床が続いて身体が弱
つた後にもリハビリテーション
が行われる。がんのリハ
ビリテーションという領域
もある。

リハビリテーションは障害
に対応する医療である。
筋力が低下したり、関節
の動く範囲が狭またりと
いった機能障害に対し、ま
た着がえや歩行といった日
常生活が困難になったこと
に対し、その改善をはか
ることがリハビリテーション
である。リハビリテーション
が扱う領域は手足の動き
の障害に留まらず、嚥下・
構音障害や、認知・判断

力などが含まれ
機能障害に及ぶ
この障害への対
通りのやりかたが
1つは障害その
すことである。因
て足の筋力が弱
対して、
筋力トレーニングをし
て力をつけておけ
けなおす
場合がこれにあた
る。関節の曲げ
範囲が狭まつてしま
きにストレッチを域を拡げるのもある。
もうひとつ的是

る高次脳たは、やれど
心には一習すことを
ある。ものを治しに左上
臥床が続いたことにする左上
手く仕事したことにする左上
いたことにする左上

障害があるな
い場合に右手
を使って洋服を脱
が方法を習得する
ことがある。
上肢が麻痺して
いるのである。

なりにすことが難
じて練り別 の方法
ように努力
して動か
を上
る。
リテーション
がぎ着
障害は必
とか
る訳ではな
い、治
療から本人
へシヨンで元

しかしも完治するのを待つことにならぬ。この間は、必ずしも完治することを踏まえ、どのようなり方のリハビリテーションがベストなのか、本人と共にできるだけのことをお話ししていきたい。

「」と話してしまったの都合の悪さを分りハビリテーション担当する専門職にはアーチション科医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士、社会工作者などがいてチームでいる。

まうこと
かつて欲
るがま
くもの
要であ
ヨンを担
りハビリ
療法士
リハビ
業療法
が分か
看護師
リハビ
テーシ
云福祉士
際に、
おうと
を組んで
かに効率
は新たな
るかを指
のよう
練習
助言した
んでもい
たりす
けるには
リハ
り返し
まく活
ことが必
高めて

り、療法士にさまになっていて身ではない。受け身で、本質的になることある。

ヒリテーションの基づいていれば、リハビリヨンが必要となつて、何でもなおして、いう気持ちと、ギヤップに悩まさるが減るであろうがなんとかしようを持ちにもなり、な目標を立てて、ヒリテーションを用いて生活の質を戴きたい。